

国立公園等での体験型環境学習

平成17年度子どもパークレンジャー事業 社団法人日本環境教育フォーラム

1. 趣旨

全国の国立公園および世界自然遺産地域などにおいて、子供たちに、各種環境保全活動及び一般利用者指導活動を体験してもらうことで、自然保護や環境保全の大切さ、社会への貢献の心を学ばせ、正義感や倫理観、思いやりの心など、豊かな人間性を育む心の教育を行う。これらの活動について関係省庁と連携して、地域の環境をテーマに継続的な体験学習を行う事業の実施を通して、体験型環境学習を推進することを趣旨とする。

[北海道(東北北海道地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者 年齢等

12月4日 17/17/30、2月12日 10/10/30

のべ27人/実数27人

募集対象地域：釧路市、阿寒町、標本町、美幌町、
弟子屈町など

対象年齢：小1～小6



【オオハクチョウの観察(東北北海道地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：10月16日、1月16日

地域における体験型環境学習：12月4日、2月12日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：阿寒国立公園・釧路湿原国立公園

12月4日はオオハクチョウ、2月12日はタンチョウを通して、それを取り巻く生態系について学んだ。

5. 事業の特色

それぞれの実施日は、子ども達が設定されたテーマの生き物の観察を行い、あわせてそれを取り巻く生態系について学ぶように留意した。体験と座学の組み合わせで、子ども達がより深く生き物の生態について捉えることができたと考えられる。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

北海道教育委員会担当者
 環境省担当者
 NPO 法人ねおす担当者
 鶴居タンチョウサンクチュアリ担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加者(人数)	指導者(人数)
12/4	「ラムサール条約とオオハクチョウものがたり」 ・オオハクチョウを通してラムサール条約登録湿地の自然保護活動と生態系を知る。 ～オオハクチョウを観察し生態系を学びました。～	厚岸水鳥観察館	17人	12人
2/12	「釧路湿原とタンチョウものがたり」 ・タンチョウの生態を学び、観察をしました。 ～タンチョウの調査・給餌場の観察をし、生態系を学びました。～	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	10人	12人

[北海道(西北海道地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

6月26日 7/7/25、9月4日 14/14/25

のべ21名/実数21名

募集対象地域：札幌市・函館市・旭川市・北見市・室蘭市など

対象年齢：小4～中3



【生き物調査(西北海道地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月25日、6月26日、7月21日、8月29日、9月3日、9月4日

地域における体験型環境学習：6月26日、9月4日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：支笏洞爺国立公園

両日とも財田自然体験ハウス周辺で、ビオトープ観察や生き物調査などを行った。メインは6月26日は自然物を使い、子どもパークレンジャーのシンボルとなる旗を作成し、9月4日は外来植物の駆除を行った。

5. 事業の特色

自然の中から毎回スポットを当ててそれを「宝物」とし、今後、野生動物との共存を考えていくための意識向上を図ることに留意した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

北海道教育委員会担当者
千歳市教育委員会担当者
千歳市担当者
(財)自然公園財団担当者
環境省 西北海道地区事務所担当者
支笏洞爺国立公園担当者
NPO 法人エコロジカルコミュニティ担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参観(人数)	指導(人数)
6/26	「国立公園には宝物がいっぱい」 ・自然の宝物についてイメージを膨らます ～ビオトープでの生き物調査や、葉っぱでスタンプを作った。～	財田自然体験ハウス	7人	16人
9/4	「洞爺湖の宝物を大切にする」 ・レンジャーの仕事を体験する。 ～外来種駆除、ビオトープの生き物調査をした。～	財田自然体験ハウスとその周辺	14人	12人

[青森県(東北地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

7月24日～25日 7/7/20

募集対象地域：弘前市、五所川原市、岩木町など

対象年齢：小学2年から中学2年



【水鉄砲 (東北地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月9日、6月14日、7月26日、8月29日、9月3日

地域における体験型環境学習：7月24～25日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：十和田八幡平国立公園

マタギと共に活動し、マタギの文化と心に触れる内容であった。

5. 事業の特色

マタギが持つ技術（なめこの取り方、ロープワーク、魚の取り方、水鉄砲作り）などを体験し、その背景にあるマタギ文化に触れ共に生活をする中で、自然との付き合い方（心）を感じ学ぶプログラムを展開した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

環境省 東北地区自然保護事務所 担当者
岩崎町役場 担当者
社会教育委員
青森県教育委員会 担当者
NPO 法人岩木山自然学校自然学校 担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参観(人数)	指導(人数)
7/24～ 25	「マタギのキャンプ」 ・マタギの文化と心に触れる。 ～マタギと一緒に山・川での体験をする内容であった。～ マタギ小屋の隣にテント泊	鍋倉山、大川	7人	12人

【栃木県(北関東地区)】

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

1月28日～29日 13/13/25

募集対象地域：栗野町、足尾町、鹿沼市、日光市など

対象年齢：小4～中2



【パトロール中(北関東地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：11月9日、12月19日、1月24日

地域における体験型環境学習：9月3日～4日、1月28～29日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：日光国立公園

金精沢、光徳牧場で雪の上をアニマルトレッキングし、日光の野生動物について説明を聞き、パトロールを行った。また、その成果をマップに書き込んだ。

5. 事業の特色

レンジャーの仕事を実際に体験することで、野生動物と人間の共存はどうすればいいのか、子ども達自身が体験をして考えることに留意した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

栃木県教育委員会担当者 環境省担当者 社団法人ネイチャーゲーム協会担当者 日光国立公園担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加者(人数)	指導者(人数)
1/28～ 29	「レンジャーと一緒に、雪の奥日光をパトロール！」 ・レンジャーの仕事の疑似体験をする内容であった。 ～雪の中をパトロールし、マップを作成した～ ふぉーれすといいん実之屋	日光国立公園	13人	8人

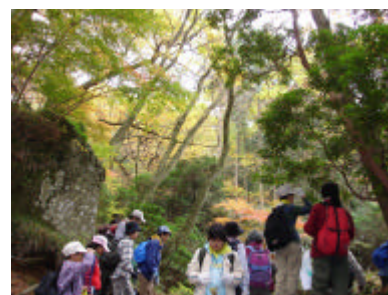
[神奈川県(南関東地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

11月6日 17/20/20

募集対象地域：富士吉田市、富士河口湖町、山中湖町、甲府市、御殿場市、静岡市など

対象者年齢：小3～中2



【自然探索路観察(南関東地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：10月5日、10月25日、11月4日、11月7日

地域における体験型環境学習：11月6日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：富士箱根伊豆国立公園

大涌谷へ至る自然探索路で木の実やゴミを集めながら散策した後は、大涌谷（箱根火山）のでき方について学んだ。探索路で見つけた自然物で、最後に思い思いのテーマで作品を作った。

5. 事業の特色

火山活動とは切り離せない地域で、地殻変動と結びつくプログラムとした。パックテストや自然観察、作品作りを通して多様な自然にも関心が向くことに留意した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

神奈川県教育庁関係者

環境省関係者

NPO 法人ホールアース研究所担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参観(人数)	指導(人数)
11/6	「箱根の火山と自然を調査しよう」 ・箱根火山を知る、探勝路での体験を通して自らと自然の付き合い方を考える。 ～箱根の自然を体験し、探勝路で自然物やゴミを拾う内容であった。～	大涌谷自然探勝路	17人	5人

[長野県(中部地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

8月20日～21日 11/11/30

募集対象地域：松本市内、高山市内など

対象年齢：小2～中1



【シラカバ伐採(中部地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月13日

地域における体験型環境学習：8月20日～21日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：中部山岳国立公園

景観維持活動（昔の牛の放牧地の再現）を行うためにシラカバ伐採を体験し、自然観察ハイクや星空観察を行った。

5. 事業の特色

実施前にクマの目撃情報があり、子ども達自身が野生動物のエリアで活動することを実感できたようであった。シラカバの伐採を通して、人と自然の関わり方を知るプログラムを展開した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

長野県教育委員会 担当者、岐阜県教育委員会 担当者
松本市教育委員会 担当者、高山市教育委員会 担当者
安曇村教育委員会 担当者、(財)自然公園財団 担当者
環境省 担当者、休暇村乗鞍高原 担当者、森林たくみ塾担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加者(人数)	指導者(人数)
8/20~ 21	「シラカバの森パトロール隊！」 ・シラカバの木の除間伐をすることで、人と自然の関わりを学ぶ ～ハイク・星空観察・景観維持活動としてシラカバの伐採を行った～ 一之瀬キャンプ場	乗鞍高原	11人	9人

[三重県(近畿地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

7月17日～18日 43/43/30

募集対象地域：大阪市、橿原市、田原本町、大和高田市、名古屋市、津市、松阪市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、鳥羽市、熊野市、伊勢市、名張市、京都市など

対象年齢：小3～中1



【アコヤガイ掃除(近畿地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月6日

地域における体験型環境学習：7月17日～18日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：三重県志摩市

海女と一緒に海の生き物観察、夜の生き物観察、真珠の養殖現場の見学、貝でクラフトを作成した。

5. 事業の特色

里海でふるさとの自然と人との関わりについて、伊勢志摩の海の豊かさを体感すると共に、産業としての海の役割を知る内容を展開した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

環境省担当者 横山ビジターセンター担当者 志摩市担当者 三重県科学技術振興センター担当者 大杉谷自然学校担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加(人数)	指導(人数)
7/17~ 18	「しんじゅが育つ海のヒミツ！」 ・海の豊かさ、人々と海のつながり、レンジャーの仕事、国立公園の機能を知る。 ～養殖体験・海の生き物の観察、貝クラフトを作成した～ 志摩自然学校	大王町	43人	18人

[島根県(山陰地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

6月11日～12日 20/30/30、

募集対象地域：大田市、出雲市、松江市、飯南町、雲南町、美郷町、佐田町、多岐町等

対象年齢：小4～中3



【子どもパークレンジャー任命式(山陰地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月12日

地域における体験型環境学習：6月11日～12日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：大山隠岐国立公園と森の役割を実験によって理解し、登山道の軽修繕をして、男三瓶山へ登山をした。

5. 事業の特色

観察・実験と実践を組み合わせることにより、児童がより深い自然の理解ができるように努めた。またグループでの発表の時間を設けることにより、児童が感じたことや考え事をきちんと発言できるようにした。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

島根県教育委員会担当者、環境省担当者、島根県立三瓶自然館担当者、林野庁担当者、国立三瓶青年の家担当者、島根県担当者、大田市担当者、財団法人三瓶フィールドミュージアム財団担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	観覧(人数)	指導(人数)
6/11~ 12	「さんべの山と森を守ろう！」 ・森や山の役割や働きを知り、国立公園のマナーを知る。 ～山や森の機能を知る実験をし、登山道の修繕をし、男三瓶山山頂まで登頂した～ 国立三瓶青年の家	北の原・男三瓶山周辺	30人	22人

[広島県(山陽四国地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

9月3日～4日 35/40/40

募集対象地域：広島市、廿日市市

対象年齢：小4～小6



【ガラス作り(山陽四国地区)】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：6月23日、12月22日

地域における体験型環境学習：9月3日～4日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：瀬戸内海国立公園

鹿の生態についてレクチャーを受けた後、鹿の生態調査をした。鹿の糞でガラス作りやこれまでの調査についてグループで話し合いを行った。

5. 事業の特色

鹿の暮らしや生態について学び、人が自然に与える影響について考えるきっかけとなるプログラムを展開した。終盤では宮島の環境や鹿について発見したことや気づいたこと、そして観光客に伝えるべきことは何かを話し合い、参加者間でその内容を共有する内容であった。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

広島県教育委員会担当者、 環境省担当者、 人間科学研究所担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加者(人数)	指導者(人数)
9/3~4	「宮島をくまなく歩こう！鹿の暮らしを追跡調査」 ・鹿の生態について学ぶ ～鹿の生態調査をし、鹿の糞でガラス作りをした。～ 包ヶ浦ケビン泊	包ヶ浦自然公園	35人	21人

[熊本県(九州地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

9月17日 9/30/30、10月29日 15/30/30、
のべ24人/実数24人

募集対象地域：熊本県内（主に教育委員会、小中学校）

対象年齢：小5～中1



【採取した種子の観察（九州地区）】

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議：7月14日、7月31日、9月10日、9月17日、
10月6日、10月14日、9月17日、10月29日

地域における体験型環境学習：10月29日

実践発表、協議：WEB

4. 活動場所・概要

実施地域：阿蘇くじゅう国立公園

草原の理解と維持について学ぶようにした。9月17日は草泊りを作り、10月29日は希少植物の観察をメインに行った。

5. 事業の特色

阿蘇と人の関わりをテーマにプログラムを展開した。草泊りでは人と草原の共生について、希少植物の観察では野草が持つ生態系での役割や減少している原因(草原面積が減少している現状、盗掘の増加など)について、参加者が改めて知る機会となる内容を展開した。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

熊本県教育委員会担当者、
環境省担当者、
野外教育研究所 IOE 担当者
阿蘇くじゅう国立公園担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参観(人数)	指観(人数)
9/17	「“草泊り”ってなんだ？」 ・阿蘇の草原を人々が利用することで維持されてきたことを理解する。 ～草泊りを作り、草原に生えている草花を学んだ～	国立阿蘇青年の家	9人	21人
10/29	「自然の中には宝がいっぱい！」 ・草原の理解と維持について学ぶ ～アクティビティを体験し、マイクロスケッチをした～	国立阿蘇青年の家	15人	6人

[沖縄県(沖縄奄美地区)]

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

12月3日 11/20/20

募集対象地域: 石垣市内

対象年齢: 小2～小6

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議: 7月15日、11月2日、11月30日、12月2日

地域における体験型環境学習: 12月3日

実践発表、協議: WEB



【紙芝居と民謡(沖縄奄美地区)】

4. 活動場所・概要

実施場所：環境省国際珊瑚礁研究モニタリングセンター、名蔵アンパル干潟
干潟の生物の民謡と干潟の観察を行った。

5. 事業の特色

アンパル干潟の文化（紙芝居・民謡）科学（民謡に登場する蟹の話・アンパル干潟での観察を通して干潟の生態を学ぶ）のプログラムを展開した。両側面からのプログラムを展開することで、アンパル干潟がこれからも守るべき場所であると参加者が理解できたのではないと思われる。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

沖縄県教育委員会担当者、
環境省担当者
石垣市教育委員会担当者
竹富町教育委員会担当者
石垣海上保安部担当者
エコツアーふくみみ担当者

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加者(人数)	指導者(人数)
12/3	「あんぱるぬみだが一まゆんた」の世界 ・干潟の生物の民謡を通して、昔の人が自然にどのように関わってきたかを考える。 ～民謡「あんぱるぬみだが一まゆんた」を練習し、干潟でカニを探し、みんなで唄を歌った～	名蔵アンパル干潟	20人	11人

3 実践発表、協議

WEBでの成果発表 <http://blog.goo.ne.jp/jeef09>
・各地域の指導者による事業の経過報告や課題の発表等
・人数：各地域の指導者 11名

国立公園等での体験型環境学習

白山市野外教育推進事業

白山市アドベンチャーキャンプ実行委員会 (白山市アドベンチャーキャンプ)



【全員で白山山頂に到達！
空がとても近く感じました】

1. 趣旨

自然を活かした体験活動は、子どもたちの豊かな心を育むための重要な要素です。また、野外教育活動は、環境意識を高める環境学習としての側面も持ちます。この観点から、白山を中心とする国立公園の大自然を舞台とした体験活動を通して地域の特性を活かした自然体験並びに環境学習の機会を幅広く子どもたちに提供するために実施します。

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

21名 / 22名 / 24名 市内の小学5年生から中学2年生のべ 21人 / 実数 21人

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議： 6月9日, 6月23日, 6月30日, 7月10日

地域における体験型環境学習： 7月31日～8月6日(6泊7日)
10月22日～23日, 11月3日

実践発表、協議： 11月19日

4. 活動場所・概要

白山を中心とした国立公園の大自然を舞台とした異年齢集団による共同生活を通して、忍耐力や自立心、協調性など豊かな人間性を育むとともに自然環境を深く学ぶことをねらいとする。

このねらいを達成するために、以下のような具体的な目標をもち実施している。

- ・ 国立公園内での生活を通して、自然に負担をかけない生活を学ぶ。
- ・ 異年齢集団による共同生活を通して、仲間の大切さを学ぶ。
- ・ 標高2702mの白山を登ることを通して、自然の厳しさや雄大さを身体全体で感じるとともに、困難を克服する力を身につける。

5. 事業の特色

本事業は、一週間の期間を大自然の中で共同生活することで、自然の厳しさや雄大さ、仲間の大切さを効果的に学ぶことができる内容としている。

子どもたちが自身で生活をつくるため、日常の生活との違いを認識しやすく、環境への関心も引き出しやすいことが特色となる。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

野外教育指導者グループ代表、野外教育指導者グループ実務担当、ボーイスカウト指導者、保健師、白山国立公園施設管理運営担当、前年度野外活動事業看護担当、市生涯学習課長、市生涯学習課青少年担当

2 地域における体験型環境学習

月 日	活動内容	実施場所	参加者数	指導者数
7/9	事前学習	松任文化会館	21	19
7/23~24	プレキャンプ テント設営法、自然に優しい野外料理	白山青年の家キャンプ場	21	14
7/31~8/6	本キャンプ		21	20
(7/31)	テント設営、自然発見野外ゲーム	中宮温泉野営場		
(8/1)	自然観察ハイキング、水質調査	〃		
(8/2)	まつり、全体営火	〃		
(8/3)	移動、散策、登山の心得	市ノ瀬野営場		
(8/4)	登山(市ノ瀬~別当出合~南竜馬場)	南竜山荘		
(8/5)	登山(南竜馬場~御前峰~別当出合)	白山ろく少年自然の家		
(8/6)	ふりかえり、作文			
8/25	事後学習 本キャンプのふりかえり	松任文化会館	21	13
10/22~23	秋の一泊学習 ふりかえり、作文	白山ろく少年自然の家	17	12
11/3	秋の一泊学習おまけ編 白山麓探検	白山麓周辺	17	4

3 実践発表、協議

白山市アドベンチャーキャンプについては、11月19日に開催された松任っ子フォーラム席上で本キャンプを中心に学んだ自然環境についての体験発表を行った。また実践報告書を作成し、フォーラム参加者等に配布した。さらに、同内容のものを白山市ホームページにも掲載し、情報発信している。

また、実践発表の様子を、市ホームページを利用し全国発信した。

国立公園等での体験型環境学習

戸隠環境ジュニアボランティア 戸隠環境ジュニアボランティア実行委員会



【野鳥調査の一コマ】

1. 趣旨

当事業では、多様な自然環境と伝統的な歴史・文化を有する上信越高原国立公園戸隠高原を舞台として、長野県、長野市、関係する各機関、国立公園自然保護官と連携を持ち、地域一体となって子どもたちの参画による主体的な体験型環境学習の場を提供する。これにより、子どもたちの豊かな人間性、社会性を育むとともに、豊かな自然の中での活動による子どもたちの「生きる力」を育むことに寄与するものとする。

2. 参加者数 / 応募人数 / 募集人数, 地域, 対象者年齢等

参加者数 48名(全3回) / 募集人数 20名 / 1回

地域 長野市内 年齢 小学校1年生? 小学校6年生

3. 活動実施期間及び総泊日数

企画運営会議： 9月27日, 10月11日

地域における体験型環境学習：実施日 10月23日、11月14日、2月5日

実践発表、協議：2月21日

4. 活動場所・概要

上信越高原国立公園戸隠高原 「秋の落とし物探しをしよう！」

「冬の森で生きもの探しと野鳥調査」

「雪の森をパトロール&巣箱の補修と清掃活動」

5. 事業の特色

上信越高原国立公園を有する戸隠高原には多様な自然があり、自然体験をするフィールドとして最適である。その中で、参加者は環境省自然保護官が普段行っている活動を共に体験し、自然への関心をもち、また自然を守る取組みをする大人への憧れを持つものである。また指導にはネイチャーゲームを取り入れ、子どもたちに備わる感性を助長している。

実施内容

1 子どもたちの参画による企画運営会議

【企画運営会議の構成】

環境省戸隠自然保護官事務所 自然保護官? 2名 社団法人日本ネイチャーゲーム協会戸隠地区理事
指導者 5名、過去の行事に参加した戸隠地区内の小学5年生3名、県教育委員会 1名

企画会議実施日：

9月27日 実施場所：戸隠高原自然学校内 行事实施3回分の企画、内容の立案、確認をした。また子どもたち参画として地元小学生（過去に同行事参加経験あり）を招き、自然の中でのボランティア作業や、何をしたいかをインタビューした。戸隠に住み、また戸隠でも国立公園の近くで暮らしている子どもということもあり、自然の中で何をしたいという問いには、あまり反応はなく、たくさん遊ぶことを希望していた。

10月11日 実施場所：環境省戸隠自然保護官事務所 行事3回分のプログラムの確認と、第1回実施分の役割分担確認 第1回企画会議を受け、子どもたちには出来るだけ環境省レンジャーの体験を行えるように体制を整えていくことにする。作業、調査、そしてパトロールの柱を確認。

2 地域における体験型環境学習

月/日	活動内容	実施場所	参加(人数)	指導(人数)
10月23日	「秋の落ち物探しをしよう！」 環境省レンジャーの活動紹介と植生が多様な戸隠を実感する様々な葉や実を拾い生態を観察と導入にはネイチャーゲーム実施。拾った葉や実を使ってクラフト作り、園内施設に展示した。また実施場所でのゴミ拾いをして環境理解に努めた。	上信越高原国立公園内森林植物園、及び植物園内みどりの体験館	18名	7名+パークレンジャー -2名
11月14日	「冬の森で生きもの探しと野鳥調査」 越冬する植物、昆虫の生態調査、導入にはネイチャーゲーム実施。野鳥調査として池にいるカモの数を数え、生態を観察した。カモの生態をデッサンし発表した。	上信越高原国立公園内森林植物園、及び戸隠高原自然学校	15名	7名+パークレンジャー -2名
2月5日	「雪の森をパトロール&巣箱の補修と清掃活動」 雪の森のパトロールを実施。雪の森に入る導入として、冬の動物、鳥類を知るためのネイチャーゲーム実施。巣箱の清掃と修繕活動。巣箱の必要性のレクチャー。まとめて3回分の活動をスライドショーで実施した。	上信越高原国立公園内森林植物園、及び戸隠高原自然学校	15名	7名+パークレンジャー -2名

3 実践発表、協議

・実践発表：活動の概要、子どもの制作物長野県委託施設戸隠森林植物園内みどりの体験学習館に展示。社団法人日本ネイチャーゲーム協会研究事例集に掲載し頒布する

・事後企画会議・協議開催：2月21日 開催場所 戸隠高原自然学校

環境省戸隠自然保護官事務所 自然保護官×2名 社団法人日本ネイチャーゲーム協会戸隠地区理事×1名 指導者×4名 長野県教育委員会×1名・各回の反省と成果の共有をした。実施時期では、秋以降に偏りがあり、出来れば四季を通じた開催を希望。成果としては、ゲームでは非常に賑やかな子どもたちも、ゴミ拾いや野鳥の調査体験では関心と集中力を持つようになる。普段自然に近い子どもたちこそ、地元の森への興味を持つ大切な機会になったかと思われる。